

6 今年度の研究実践<委託班>

(1) 授業研究① (R4.8.30)

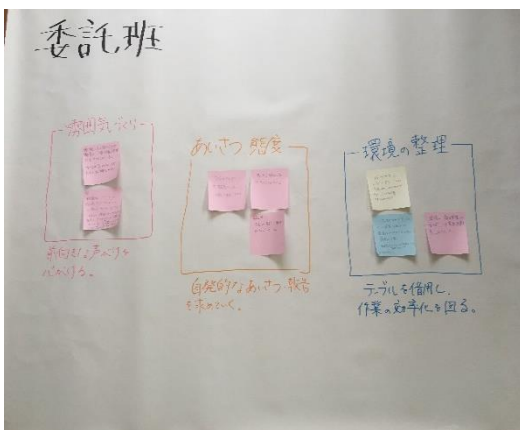
①作業班の課題

- ア、作業量の確保。
- イ、生徒個々に見合う作業、難易度の設定が難しい。
- ウ、毎回作業内容が変わるので、熟達しない。
- エ、様々な作業が体験でき、どのような実態の生徒でも取り組める作業がある。
- オ、実際に企業から発注される本物の作業を体験できる。
- カ、受注作業のため、失敗を容認できない。

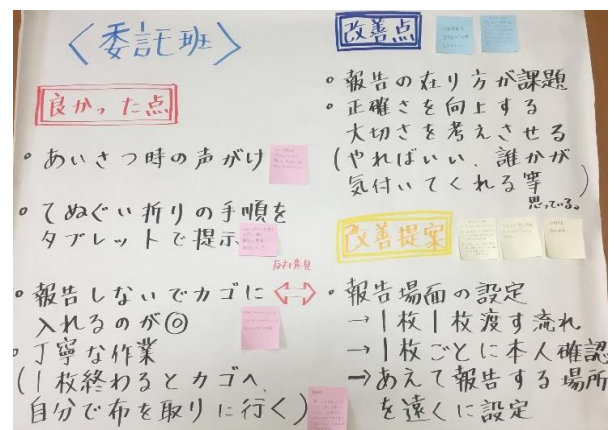
②生徒が主体的に作業学習に意欲をもって参加するための支援方法

- ア、生徒の興味・関心やその日の体調に合わせて、作業内容を決定する。
- イ、生徒が落ち着いて作業に取り組める環境（前向きな声かけ、スペースの確保）を整える。
- ウ、生徒の実態を把握した上で、見本や手順表を準備する。

ワークショップ型での資料



(R4.8.30 第1回授業研究)



(R4.10.25 第2回授業研究)

(2) 第1回授業研究会からの意見や各作業班での振り返り

- ①前向きな声かけにより、作業中の雰囲気良かった。
- ②自発的なあいさつや報告を求めていく必要がある。
- ③作業スペースの確保のため、テーブルを借用し、作業の効率化を図る。

(3) 授業研究② (R4.10.25) 2回目の授業を実施し、1回目からどう変化したのか。

- ①一枚終わると籠に入れ、終わったら自分で布を取りに行く流れがスムーズにできていた。
- ②やり直すべきところを本人が確認し、離れた場所にいる教員に報告を求めに行く流れを設定すべき、という意見が出ていた。
- ③声かけにより、あいさつ時のおじぎができていた。
- ④作業に参加する時間が増えた。
- ⑤分解作業で、安全に行えるよう（ゴーグルの使用等）配慮していた。

7 研究のまとめ（成果と課題）～生徒が主体的に作業学習に意欲をもって参加するための支援方法～

（1）成果

- ①生徒との対話を通して、興味関心やその日に体調に合わせた作業種を選択することで、作業に参加できる時間が増加した。
- ②卒業後の進路先を想定した内容の作業に取り組むことで、意欲的に取り組むことができた。
- ③前向きな声かけや十分なスペースの確保で精神的な安定が得られ、自発的な動きや注意を受け入れる姿勢が見られた。
- ④手本や手順表を確認しながら、作業に取り組むことができた。
- ⑤自ら工夫して治具を作成し、作業効率を上げることができた。

（2）課題

- ①作業場所から離れた位置に報告場面を設定し、報告する習慣をつけるようにする。
- ②に生徒との対話を通して、作業しやすい環境を創造する。
- ③前向きな声かけをすることで生徒の作業成果を認め、ミスした時には自分で解決策を考える機会を設ける。

（3）来年度の取り組み

- ①報告場面の設定を明確にし、計画的に報告する習慣を生徒につけていく。
- ②引き続き広く受託作業を募り、生徒にとってやりがいのある作業班にしていく。
- ③前向きなこえがけと、対話により、ひとりひとりに合った環境を整えることで、作業しやすい環境にする。